常磐毎日新聞

五月二十五日夕刊

日刊

定價 一部金五錢 一ヶ月金五拾錢 郵税五厘
廣告料普通一行五拾錢 場所指定一行七拾錢
日曜祝祭日の翌日休刊
發行兼編輯人印刷人 坂本忠治
編輯局 平 長橋町三五
發行所 常磐毎日新聞社 電話 六三〇番
印刷所 常磐毎日印刷株式會社 （振替口座）東京 四〇二二〇番

印刷の御用は
常磐毎日印刷株式會社へ
電話六三〇番

空地の隅々まで『ひえ』を植ゑよ

▽…家畜飼養の自給

勤勞報國運動に最適

農試分場提唱

神谷農試分場ではこの程『ひえ』栽培の運動を提唱し管內各青年團に呼びかけることになつた、この運動は時局に當面して金よりも物の秋である情勢に鑑み農産物の大增産が要求されてゐる、それが戰果に國民生活に重大なる關係を持つてゐるが、農産物增産の根源は家畜飼養に依つて勞力の不足を補充し肥料の自給をなし得る樣にしなければならぬ家畜の飼養をなすには飼料をどこからか得なければならない、そこに飼料として『ひえ』の栽培が最も効果的であるから空地の隅々までも『ひえ』を植ゑよといふ運動で種子を持ない人には無償分配する、稗は如何なる不毛の地にも簡單に栽培することが出來、多收量であり種實は貯藏性に富み食料としても榮養價があるので學生生徒及び一般青少年の勤勞報國運動として最適のものとされてゐる

貯蓄債券賣出に賞與景氣反映か

支那事變貯蓄債券十圓券（額面十五圓）は六月十一日から三十日まで郵便局をはじめ主要銀行から賣り出されるが時恰も春繭の出廻り期でありそれに會社、工場、鑛山などは上半期賞與の支給時期であるところからこれら繭景氣やボーナス景氣が反映良好な賣れゆきを示すものとみられる

歸港しない磐城丸

地元閑却か？

怨さの聲起る

漁獲の快報更になし

小名濱町所在本縣水産試驗場所屬磐城丸は海洋調査漁場探査と云ふ大任を帶びて去る十日小名濱港を出で既に二週間を經過して居るが未だ漁獲の報に接しない漁獲しても同港に寄港する事は稀れで地許を霑潤する事は僅少である、現に江名町萬漁丸や其他の漁船は既に一萬乃至一萬五千本の漁獲を占め亦二十四日の朝入港して居るに見ても磐城丸は地許を閑却し過ぎないかと小名濱海産商組合からの非難が湧いて居る有樣である

保菌の料理番

平市に入込む

料理店を一齊調査

發見者は屆出よ

平署では奈良縣磯城郡奥山病院に入院治療中の腸チフス菌健康保菌者北海道生れ奈良縣丹波市町大字三島料理仕出業山本龜吉氏方調理人北山昇(二六)がこの程逃走平市に入り込んだ形跡があるので今二十五日署員を總動員市內における宿屋、料理店、飲食店を一齊調査したが同人は丈五尺三寸位、痩型、顔面長、青白く頭髪は長く七、三にわけ洋服を着用しており發見者は逸早く同署に屆けて貰ひ度いといふ

鰹餌で

廻船を吸集

小名濱町は愈々鰹漁季に入り廻船の吸集策に鰹餌鰯の生簀が最も必要であるが本港では僅かに酢屋、八島屋、儀助の三漁業家だけで僅少に過ぎず廻船が毎日入港するとせば餌鰯供給に手詰りを生じ折角の廻船は入港見合せとなる事明の結果である處から同町海産商組合長小野豊次氏はこの餌鰯生簀は疾くに町當局に於て補助を與へて獎勵し廻航をして躊躇せしめぬ樣計畫を樹立する必要があると組合會を起し町當局に其對處策を交渉する事になつた由

空の護り

第二次演習に先だつて訓練

有事の災禍に備ふ

講演會其他の事業

平署では先般の防空監視演習に次いで本夏行はれる第二次防空演習に先だち防空思想普及のため近く左の事業を行ひ平素の訓練と共に有事の災禍に備へることゝなつた

△講演會、映畫會開催

△警防團幹部講習會（副班長以上を集めて二日間に亘り警防關係法令操練點檢、禮式講習を行ふ）

△海岸住民に對する思想普及（海岸住民の漁船に對する警報傳達航路標識燈及び漁火の燈火管制の講習）

△防護救護講習

△家庭防空群の指導

△防空標語募集

小名濱の青年學校

四百名入學

小名濱では青年學校の義務制實施が各方面の援助に依り約四百名の入學受附となつたので來二十七日午前十時より小學校講堂に於て入學式擧行すると

呆れた小娘

說諭された足で

又もや盗む

既報、盗んだ金で洋服や帽子、靴等を新調上京せんと驛前に現れたところを逮捕された不良少女―平市五丁目周旋業某二女某(一三)は即日親を呼び出し散々說諭した上引取らせたがこの夜またも第三校に押入り職員室や教室を荒し廻つたこと判明平署も呆れて結局感化院に送ることになつた

懲役と罰金

既報 昭和人絹工場から鉛塊を竊取した同工場雜役夫關正吉(四三)の公判は今二十五日平區に開廷懲役八ヶ月罰金二十圓の判決を言渡されたがこれを買受けた同村古物商金張壽(五〇)は懲役六ヶ月罰金五十圓但し執行猶豫三年間の判決を言渡された

家出の十八娘を

神奈川縣で檢束

好間村大字上好間農鈴木榮太郎さん長女君代(一八)は數日前家出したので家人が各方面に手配搜査してゐたが二十四日神奈川縣程ヶ谷町を徘徊中擧動不審で保護檢束されてゐる旨今二十五日平署に通知があつたので直ちに實父が引取に向つた

總務部長の

金集中講演

既報＝平市內各中等學校における金集中に關する講演會は來る三十一日縣から總務部長の內藤三郎氏が出張左の如く開かれる

△平商午後一時二十分

△磐女午後二時二十分

△磐中午後三時

小名濱支局通信

作山江名町長の時局認識（中）

支局長 小野務平

公務堆積裏にスラ〳〵と方付け記者を顧みてサ―行ふと促すのであつた行く先き何處謂はずもがな江名掘指の料亭勇屋であつた其處は如何なる高官でも亦如何なる野人でも町長を尋ねて時分か食事時となると今の調子でドシ〳〵案內する言はば町長私邸の延長でもあるかと疑視する人もある、女將は別として侍女の訓練實に堂に入つたもので恰も手の指を使ふが如き統制振りを一料亭さへ施行されて居るのでないかと疑はれる、茲に國事と役場の延長かなとも思へないでもない

常に町長の爲めに犬馬の勞を獻ぐる久子と呼ぶ侍女こそは眉目秀麗何處に侍つても愧かしからぬ容姿接容のしとやかなる點町長の見立に卒のない事にも敬服する、命令一下酒、サイダ新鮮の松魚の刺身鳥肉のすき燒きと云ふ食膳の調理は正に海邊ならでは味へ出來ぬ獻立であらう、殊に此の海邊に珍らしい鯉の料理はいさみ屋名題の待遇に這入る方であるとの事だ

酒も三分通り呑むと作山町長は時局に對處する町長としての時局認識とも云ふべき抱負の一端を語り出した御參なれと謹聽に及ぶと斯ふである

先頃恐れ多い事だがと襟を正ふし端然と坐を改めて學校の奉安殿の基礎が龜裂を生じ御造營申上げねば相成らぬ事態を醸した、これ刻下の戰時態制の上から謹察すると一日も早く奉安殿の御改築をなさねばならぬ事であるので其を町會に附議し滿場一致可決した、直ちに着しようとすると造營費が町から參千圓の豫算に對し一千圓の支出であるから二千圓の錢餘は一般特志家の寄附に俟つ事となつたが他事と違つて奉安殿の御造營に對し奉つはと率先一百圓の寄進を申上げ赤誠を謹んで示した譯けであるが、各特志家も同樣僅かに數日ならずして工費の豫算以上寄進も整へ不日起工の運びに至る事となつたと語り皇室中心主義を披瀝して意氣昂然たるものがあつた

奉安殿の改築談が濟むと再び坐を崩して町長得意の時局談に移つた、即ち出征兵家族に對する救護の方法であつた、祖國の爲めに身を鴻毛の輕きに比し國家を泰山の安きに置く出征將兵の家族には實に氣の毒なる生計に餘儀されて居るものがあるその家族をしてとう救濟するかが、市町村長の重要點であつて江名町長必らず月に三回若しくは四回の巡回慰問を欠かないと云ふ事で軍事救護法の外に町としての對策も講究し其生活度合に依つて後顧の慮を絶体になからしめようと勉めて居ると語つた

（續く）

無錢飲食して便所から逃走

捕らはれて植田署へ

前科四犯の強か者

目下住居不定無職茨城縣平潟町生れ小澤佐吉(三二)は二十三日午後八時頃植田町吉野家方で七圓餘の無錢飲食を働き便所の窓口から逃走せんとしたところを家人に發見逮捕され植田署に突出されたか取調の結果同人は前科四犯を有する強か者である十三日宮城刑務所出所後植田町に流れ込み二十二日夜同町の料亭扇屋で五圓餘の無錢飲食を働き逃走したこと判明した

年俸三萬六千圓

日曹工場の獨逸人技師

日曹小名濱工場にこの程獨逸人の技術者が九名も入所した、このうち機械技師のウイナル、フラン君、化學技師のリチャード・バイエル君(三九)等の俸給は月三千圓を超えその他の諸君も三百圓から五百圓といふ高給揃ひ、年三萬六千圓といへば大會社重役級の收入で軍需景氣に神經が麻痺してゐる地方人も流石に一驚してゐる

留置場で―兄弟奇遇

弟は心中未遂

兄は前借詐欺

心中未遂の弟と前借詐欺の兄が植田署の留置場で對面――目下勿來町居住白河町天神町生れ野崎國三郎(二三)は去る十八日同町料理店小坂亥之吉氏方抱酌婦加藤みよ(二〇)を前借七百圓を踏倒させて連れだしたが茨城縣助川町の某旅館で女から心中を迫まられ女は流行藥を嚥下絶命したのをみて怯氣がさし自宅に逃げ歸つたこと發覺二十四日植田署に引致留置されたところ同じ監房へ今度は實兄の信次(三二)が抛りこまれて來た

信次は昨年十一月中山形縣飽海郡高滿村烏海鑛山人夫に雇はれる契約で周旋人の田人村綠川孝德(四二)さんから旅費二十五圓を前借しながら友達が急死したと偽つたまゝ逃走中檢擧されたものである

勇士傷害

懲役言渡

既報＝妹の復緣のことから歸還勇士平山彰明君(三〇)を萬能で亂打瀕死の重傷を負はせた上遠野村字川原蛭田四郎(四五)に係る傷害事件の公判は二十四日平區で開廷、蛭田は兩人の復緣について人一倍骨を折つた自分を餘りに疎外したので興奮の餘り兇行をしたと犯行を認め富澤檢事は被告は「妹の緣組の時にも盡力してをり犯行の動機には同情すべき點がある」と論告懲役一年を求刑し今二十五日木下判事から懲役十ヶ月の判決を言渡された

竣工の平商講堂

明日修祓式を擧行

平市役所では平商友會の寄附により建築中であつた平商講堂が堂々たる偉容を整へ竣工したので明二十六日午後二時から修祓式を擧行する

廿丈の高所から

鳶職が顚落絶命

錦村大字中田鍬澤一〇鳶職遅澤七郎(四二)は昨二十四日午後五時、昭和人絹の新築工事に出稼中二十丈の所より轉落頭部を強打應急手當を施したが內出血の爲め其甲斐もなく遂に午後八時絶命した

超滿員の豪勢さ

京城の發展驚入り候

野崎市會議長通信

（朝鮮京城にて）東京驛十九日午後十時發、下關廿日午後七時卅分着午後十時卅分發の汽船金剛丸（七千噸）は超滿員已むなく午後十時五十分發臨時船に乘り廿一日午前六時卅分釜山着同六時五十分京城行の超特急は是れ又各等共に壽司詰めの滿員で乘れず、七時卅分の新京直行の急行に漸く乘車、身動きもならぬ滿員の盛況は東亞再建の潑剌たる景氣の爲めかと思ひば自から元氣も鼓舞せられ候、京城も昭和七年の視察の時とは異常の發達振りに驚き入り申候、今廿二日より三日間大會に列席共後は滿洲から北支を旅行可致候 匆々

五月廿二日
京城半島ホテル
野崎滿藏

遠用漁業船增建

東北興業會社へ申請

小名濱町磐城水産會社では昨年九月から就航した東日本丸（一三五トン）が毎航海水場高二萬圓以上の好成績をあげてゐるので水産物增産時代に相應しい遠洋漁業に主力を注ぐことゝなり二十四日縣を通じて東北興業會社へ木造（九五トン二百馬力デーゼルエンヂン漁業船）一隻建造貸付られたいと申請したが縣も極力斡旋の勞をとり實現を期してゐるといふ

揚らぬ溺死体

海岸で法要

既報＝病身を苦にして久之濱海岸鰐ケ淵に投身自殺を遂げた平市堤ノ內食肉行商鈴木甚三郎氏長男正吉君(二二)の屍体は二十三日朝同所附近の海岸に漂着したと傳へられたが右は丁度此の日が三十五日に當るところから家人や親戚が同海岸で法要を營んでゐるのを目擊した通行者が早のみこみをしたものと判明依然として屍体は揚らないと

無免許で醫師行爲

豊間村字豊間鈴木義一(三八)は無免許で昨年十二月から同村近藤さくさんの切開手術をした外同村鈴木ちよさんに注射をなし診斷書まで出してゐることが判明、醫師法違反で二十四日平署に檢擧されたが

同人は同村鈴木醫院の診療代診を勤め妻は産婆のところから村民を騙してもぐり醫師をしてゐたものである

キネマ

▲世界館―新興東亞の巨篇河津淸三郎、藤井貢、立松晃、山路ふみ子、新田實、逢初夢子主演『日本の魂』新興京都全優總出動市川右太衛門、森靜子、高山廣子他『伊達大評定』川浪良太郎主演久松三津枝共演『樺太の小判』外ニユース

▲平館―日活超特作尾上菊太郎、星玲子、月形龍之助、深水藤子、瀨川路三郎共演『松平長七郎』杉狂兒、日暮里子他『地上天國』獨逸最大の海戰映畫ルドルフ、フオルスター主演『朝やけ』外ニユース

▲聚樂館―長谷川一夫、入江たか子主演新版『藤十郎の戀』岡讓二主演『男は度胸』外ニユース及夏場所大相撲日報映畫

平市人事

[illegible]

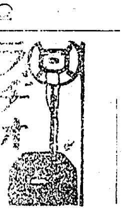
△堤ノ內一七深谷喜八氏三女絹子さん

△新川町三三吉田吉松氏四男滿男君

婚姻

△横濱市保土ヶ谷區条岡町一〇二七永島俊雄氏(二九)北目町七四鈴木キヨさん(二五)

△東京市淺草區北淸島町一二八石川勝氏(三二)八幡小路二九水島トヨさん(二四)



今晩の部

▼後六、〇〇 子供の時間 國史歷「七生報國」胡蝶座
▼後七、三〇 國民歌謠「輝く海軍記念日」
▼後七、四〇 講演 中村直勝
▼後八、〇〇 講談「秋色櫻」桃川燕林
▼後八、四〇 箏曲「竹生島」箏黑澤渡世外
▼後九、〇〇 浪花節「婦人從軍歌」篠々木米若

明日の部

▼前七、〇一 朝の修養 子爵小笠原長生
▼前九、四五 幼兒の時間 連續童話「猿のあ殿さま」
▼前一〇、二〇 家庭の時間「多産婦人の健康」
▼後〇、〇五 トーキー音樂「思ひ出の曲」
▼後三、〇〇 母の時間「幼兒の遊びと性質の見方直し方」山下俊郎
▼後六、〇〇 子供の時間 ラヂオ理科教室「僕等のからだ私達のからだ」
▼後六、二五 講演、農博三木泰治
▼後七、三〇 國民歌謠「輝く海軍記念日」指導木下保
▼後八、〇〇 管絃樂、交響曲新世界よりドヴオルザーク曲
▼後八、四〇 講談「軍使茶臼山血判状」邑井貞吉
▼後九、一〇 時事解說

吉田眼科醫院
平市紺屋町
電話八六番

愛憎三度笠

吉川延作
瀧秋方画

人の影（八）

…（265）…

お綾はこの廊にゐるのにちがひない、ゐるとすれば、必ず廊の外に出る時がある。この廊は暴力でけがすにしのびぬが、廊外なれば別に遠慮は、いらぬとも考へられた。

源十郎は、とにかく此處で、空腹を滿たした上、今一度、京の町に引きかへして、それからふたゝび引きかへし、朝夕、廊の附近にしのんでみよう、さうして、お綾と邂逅しよう、源十郎は、心の內でさうした覺悟をもつた以上、なには遠慮が邪魔になつて來た。

「御馳走でござる、これでやうやく蘇生のおもひ、これも何かの御緣でござる、京にまゐつて久しい間、殺伐な戰場にばかり身をおいてをりまして、子供の時に讀ませられた平家物語など、思ひ出すいとまもありませんでしたが、偶然に、この邊へまよひ込み、四明の山嶽に接し、雲煙の容態、凡理でないとは、はじめから氣づいてをりましたが、こゝが寂光院とは、まつたく以て意外でござつた。今もなほ記憶にありますが「寂光院は岩に苔むして、ふるうつくりなせる泉水木立、よしあるさまの御堂なり」とあつたやうに覺えてをります」

と、いつた時老尼は笑ひだし

「あら〳〵たいへんなものを御存じな、この時節柄、殊勝な心掛」

といつたが、源十郎はほめられてゐるのか嘲笑されてゐるのかわかない氣持がした。

「ハヽア、さう嘲笑なさるものではござらん、幼少より劍を學んで東西に流浪こそすれ、多少文學に興味はもつてをります、いらか破れては霧不斷の香をたき、とぼそ落ちては月常住の灯をかゝぐとはかやうの所をや申すべき、[illegible]露をふくみて、玉を貫くかとも疑はれ、池の水くさ浪にたゞよひ錦をさらすかとあやまたる……」

と、源十郎は、古い記憶をたどつて、朗吟口調で、小聲に暗誦しはじめたのであつた。その聲とその節とが非常に巧で若い尼僧の興をそゝつたのか、四五人の尼僧が廊際にあつまつて來た。

彼は、何となく氣はづかしくなつて、そのまゝ朗吟をやめてしまつて、あたゝかい飯をかきこむと

「誠に御馳走でござつた、いづれ又お目にかゝる時もござらう、拙者の名は穆浪源十郎、いづれ長からぬ命でござれど、これも又一河の流れ一樹の陰の御緣と存ずる」

と、立ちあがつた。

「もう、おかへりかなア、尼寺のことゝて、誠に心ばかりのはなむけぢや」

と、老尼は紙につゝんだものを彼の掌ににぎらせた。源十郎は何かは知らぬが

「有難い」

と、頭を下げて表に出た。

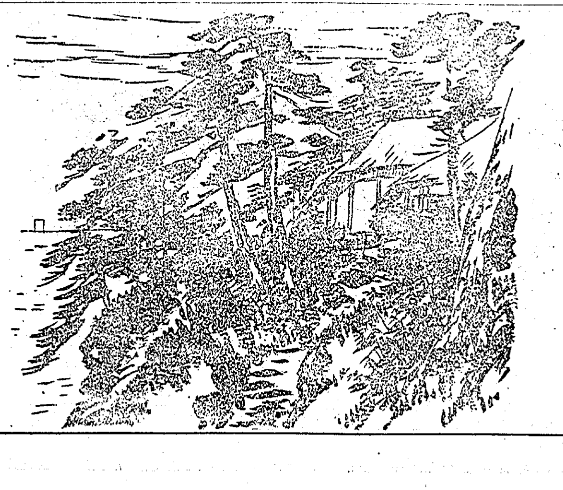
落葉の雨が、ハラ〳〵と隣寺のやうに空にまふのを見あげつゝ源十郎の目は濕にくもつてゐた。

お綾にちがひない、お綾であればこそ逃げたのである。自分の境遇に同情すればこそ、このはなむけ。

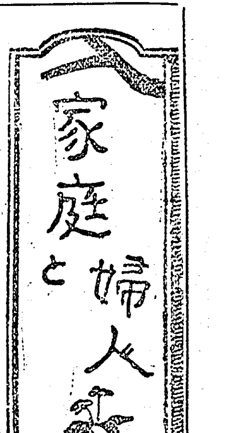
と、彼は心に思つて、紙包をひらいて見ると、內から二分金が二枚出た。彼の目はふたゝび濕にくもつてきた。

お綾をそのまゝにしておくべきか、自分は不幸でも、この靜寂の境に、佛につかへて朝には、讀經とともに花を折り、夕には、香煙につゝまれて經を誦する身の上になつてゐるとすれば、お綾は幸福であらねばならない筈である。

今、自分が強ひてお綾に逢ふ事は、お綾の幸福のために、罪惡であらねばならない、源十郎はトボトボと八瀬の方へ山路をたどりつゝあつた。比叡の頂上はすでに、白雲がつもつてゐた。



家庭と婦人



〇—毎日のメモ—〇

リンネルにアイロンをかけて、もしあやまつて焦がしたなら、すぐ新しい玉ネギを輪切りにしたもので、その部分をよく擦り、その上を冷水ですゝぎます

外見と内容

富川稻子

女性の生活と云ふもの、大きな底流をさぐるやうな心でこの頃氣づいてゐることがある

それはなかなか一口に云ひ切れないやうな複雜なものでもあるが、この頃の女性のいはゞ表面に立つやうな働き手たちの中に、もしもその人に繁華な街中で行きあつても決つしてその人が何者かと云ふことは別に氣づかないであらう、と云ふ風な人が出て來てゐる

つまり普通な人に見える。勿論よく見ればなかなかしつかりした人にはちがひない。が、決して特別な風態をしてはゐない氣持のよい普通の女性である。それでその人が評論家であつたり、婦人辯護士であつたり、また特殊な技能を持つ職業婦人であつたりする

これは日本最初のたつた三人の婦人辯護士の一人を見た時に強く感じたが、その感じは廣く婦人全體の中に大きく擴がつてゆくやうなものであつた。昔だつたら、それはすぐ特別な女性だと云ふことが一見して分つたにちがひない。これは昔の女性が、社會の中で何か社會的な仕事をしようとする場合には、女性であることから訣別して見せたり、また女性としても何か特別なものとして示威して見せなければならなかつた、と云ふ苦しい境遇から來てゐた

今日の女性が、髮も爽しく結ひ、働きよい洋裝も女性らしいものを身につけながら、仕事は仕事としてやれるやうになつたと云ふことは、幾分社會の變化の中に女性がゐることを現してゐよう、こんな環境の內には勿論マイナス點もなくはない、外見だけの女性も多い、また社會そのものにしても根本から女性を全人間的に認めてゐるわけではないが、兎に角、女性が、女性であることを特別示威せずに仕事の出來るところまで來てゐると女性自身認めるならば、外見だけの颯爽さですましてゐるのは恥かしくなるに違ひない

子供の多い家庭

優遇保護の道は？

人口をへらすな

産めよ、殖やせよ！事變下の人口問題對策として「多子家庭の保護」は去る議會で論議されました、政府では戰後國民の生活安定を目ざして新日本生活運動に乘り出し、四月一日から厚生省に生活課を新設しましたが、初代課長武島義一氏のお話を聽いて見ませう

ドイツでは、一九三五年に結婚獎勵法を改正して、子供の多い家庭に出産獎勵手當支給がなされ十六歳未滿の子供を四人以上持つ家庭では

≡子供一人に付百マルクの手當が支給され、イタリーでは一九二九年に「獨身税」「子なし税」が設けられて、獨身者は國家の要望する人口増殖の目的に添はぬとの理由で、廿五歳以上三十五歳までは五十リラの税金が課せられてをり

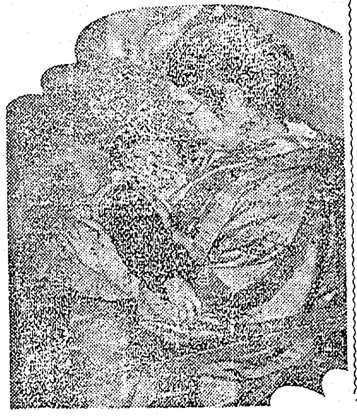
子供七人以上の家庭に對しては學用品その他を官費で支給して多子獎勵策を講じてゐます

我國でも、福井縣[illegible]町では全國にさきがけて、四人以上の子福者に對しては赤チャン育成獎勵金を出す方法を講じてをり、大阪では、從業員の結婚には七圓から十五圓、出産に對しては

≡四圓から十圓の昇給をさせる會社も出來たと云はれ、さらに去る議會でも「多子家庭保護」は時局下人口逓減の折柄、重要問題として論ぜられ、今や全國的機運に向いてゐるやうです。さて、多子家庭保護對策として第一に考へられるのは、租税政策の見地からで現在のやうに單に十八歳以下の子供には全收入の百圓の控除があると云ふだけでなく、もつと廣範圍にわたつて及ぼされるべきでせう

次に教育制度の上から云つても十人の子持に對して一律の授業料を

≡納めさせずに次男以下は控除する等の方法が講じられてもよくはないかと思ひます、さらに賃金政策の點に關しては、多子家庭と獨身者とを區別しない現在の賃金給を改めて、社會賃金の建前から多子家庭を優遇する昇給その他、取扱めてはどうでせう



か？　昨年厚生省で調べた統計によれば、埼玉縣、宮城縣の農村、神奈川縣の山村、千葉縣の漁村の四ヶ村

≡八百十五世帶では收入の少い家庭ほど子供がおほく、所謂「貧乏人の子澤山」を物語つてをり、又、多子家庭ほど不健康者並びに死亡率がおほいと云ふ結果があらはれて居ます

榮養問題と姙産婦の保護も十分考慮に入れて、國際の獎勵等を大いに行つて、姙産婦の經費の負擔を輕くする保健施設、社會施設を施す必要もありませう

なぜ學生の身長は伸びたか

肉食と糖分を多く攝るため

最近の學生の身長が以前にくらべて非常に伸びて來たと云ふことはしばしば云はれるところですが

何故學生の身長は伸びたか？について慶應大學醫學部內の食養研究會の席上厚生省公衆衞生院教授醫博川上理一氏は興味ある研究を發表されました。概要を摘錄して見ませう——

文部省の調査の最近廿一個年間の各年齡別の身長の増加を見ると廿歳の青年學生の身長は百六十二糎から百六十四糎に増加し、日本人の平均身長百六十糎をはるかに超してゐます、今これを農夫にくらべて見ると、全國の農夫は百五十七、東京府下の農夫は百五十八で、六七センチの大差があることがわかります、つまり身長は職業的の影響をうけることがおほいので、スキやクワをふりあげて田畑を耕作する肉體勞働の百姓はどうしても丈は高くなり得ないのです

また身長は地理的のえい響も受けることがおほいのです。高山に住む者は背が低い、山登りの強力等は大體低いのが普通です

その例證として高地に住む七歳の子供と十三歳の子供の身長をしらべてみると、七歳の子供は百七センチ四で低地の子供より二センチ四も低く、十三歳の子は百卅四センチ六で三センチ一も低いと云ふことが報ぜられてゐます。然し內地の日本人もアメリカにそだつた第二世日本人にくらべると丈は低いのです

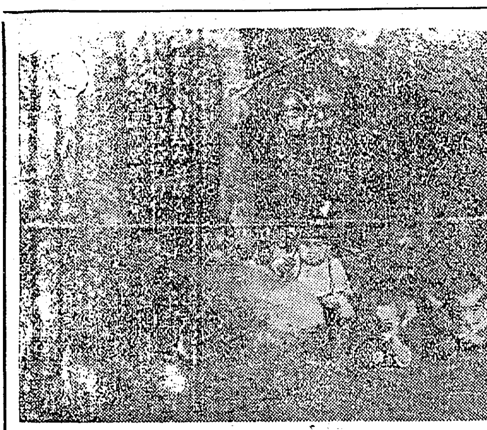
十四歳の第二世は百四十三センチなのに內地の子供は百三十八センチ七で三の差があり、十六歳では四センチの差が出て來ます

では何時代により職業により地方により身長の發育の相違ができるかと云ふと、まだまだ不明の點もおほいが、身長の發育は榮養と密接な關係があると考へられるやうになりました、[illegible]現在では榮養學說が有力になつて居ます、つまり此の廿年間に身長の伸びた原因は、日本人の食物の變化にあると云ふのです、[illegible]へば最近は砂糖を非常におほく攝取するし、以前にくらべれば牛肉とかバター、牛乳等の動物性食物をおほくとるやうになつた

學生は農夫より動物質をおほく攝るから背が高いのぢやあないかと云ふ說です

つまり以前よりは榮養がよくなつたので丈は伸びるのであると云ひ得ると思ひます、然しこゝに考へねばならないことは、身長に直接關係ある餘りよくない變化も共にあらはれてゐることです、それはムシ齒の増加です、ムシ齒は昔は少かつたし、下層の人には現在も少いのを見ても確に美食に原因がある事がわかります

然も一方現今の壯丁の體格の低下が云々されるのも榮養のためかも知れないのであつて、こゝに大いに研究の餘地があると思はれます



エイツ！　ヤッ！　の掛合も勇壯に　輝き將來の活躍を目ざして健康體へと、小供達の一日も忙しい。

子供の食事に一杯の水

子供は食事中よく水を欲しがることがありますが、それを「ごちそう樣をしてすんだらお湯でもお茶でもあげるから……」などゝ一應にしりぞけるのも問題です

食事中に水を飲めば、分泌作用を高め、消化した食物の吸收をよくする上に、內臟菌の繁殖をふせぎ、內臟に於ける解毒作用を助けるものですから、むしろ食事毎にコップ一杯の水をそへて與へた方がよいのです

殊に子供は、汁物よりもお皿のごちそうをおほくつゝきますし、食後のお茶や湯を飲まないものさへあるから尚さら水をのむのはよいことです

奥様讀本

玉子のカラもこんな使ひ道があります

アサガホの種子をまく時半分に割つたカラに土と砂と半々位にまぜたものをつめ、これに種子をまく（底には水はけの小穴を明けて置く）これを土に一つ一つならべて表面を地面と併行にしてうめておく、双葉を出してから植えかへするとき、細かい根をいためないので枯れることが少い。

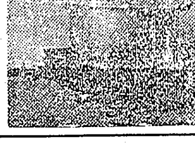
また、底にちひさい穴を開けると、酸類などをうつす時の漏斗の代用となる

お鍋は

〇〇〇煮物をするだけに〇〇〇
食器代用には不可

お鍋で御ちそうを煮た時は、煮物をすぐ他の器に移すことを忘れてはなりません、鍋をそのまゝドンブリや鉢代りに使ひ、みんな食てしまふまでそのまゝ放つておくやうでは鍋のもちが惡いばかりでなく、時には中毒の原因になることがあります

殊に銅製の鍋は有毒な綠青を生ずることがありますし、ニユームの鍋は酢や鹽氣に弱いので自然早く孔があきます



大陸行進譜

大川秋五作　若山珠美畫

第三十五回　魔の手

双美の家は朝からゴッタ返してゐた。大阪行の準備をする人々や、挨拶に來る人々で一杯であつた。大阪へ興業に行くといふだけのことで、何でこんなに人が寄る必要があるだらう。問題にすることもない双美には、異常に思へてならなかつた。それに來る人も、來る人も、さう日頃から親しくしてゐる人でもなく、それどころか、名前も知らない人までが、なれなれしい挨拶をして行くのには、呆氣に取られた。それに、ちかしい人々の顔は全然見えなかつた。第一、同級生であり、双美の最も親しい美佐子の顔が見えず、美佐子の兄の、双美の秘密を誰よりも理解してゐる迫田の顔も見えないのである。

双美はガヤガヤと騒がしい、賑騒にだまりこくつて、さうした人の顔の見えないのを、一人さびしく思つてゐた。

夜の十時の、東京驛發の特急までは、もう幾時間もなかつた。

「今までに來てくれなければ、もう來ないのだらう。でも何うして來てくれないのか知ら？」

双美の心は沈んで行つた。何が可笑しいのか、何がうれしいのか、隣の部屋からは、しつきりなく笑ひ聲が聞こえて來た。

北上は、双美との醜聞の問題があつて以來、フッツリ來なくなつたし、彼が來て呉れさうには思へないのであるが、しかし、折角の援助を、人の手によつて切り放されたやうな、云ひようのない淋しさがあつた。

「一寸會つて來ようか知ら？」

さう思ひ迷つてゐる時、[illegible]、隣の部屋に入つて來た。續いて新調[illegible]姿であり、藤田マネーヂャーの父である顯一が、でつぷりと太つた顔を出し、その後から、藤田が現れた。

「こんなところで、何をするのかい皆さんに挨拶に廻つたらどうだ。ハツハツハ……」

金潮は大きなからだをゆすつて笑つた。

「や、これはお嬢さん、この度はお目出度うございます。ハツハツハ……」

顯一は、節くれ立つた手を双美の前に出した。ギラツと光る大きなダイヤが、人目を誘ふやうに光つて見えた。双美が大理石のやうな、白いつや〳〵した手を出すと、顯一はいたいといふ程双美の手を握つた。

「双美さん、ボツボツ用意をして下さい」

藤田謙三は、こゝでも監督のやうな口をきき、なれなれしい態振りをするのであつた。

「もう準備はいいんですのよ」

双美は、今、何をしようとし、何をしてゐるのか、分らないやうな氣持になつた。

「それでは一寸、皆さんに御挨拶をして出かけませう」

藤田にうながされて、一寸腰を浮した双美は、

「直ぐ行きます」

と云つて椅子に腰を落した。三人が部屋を出て行くと、双美は用箋とペンを取り出して、唯一筋に走り書きで手紙を書いた。

『先だつての、お芝居の晩はごめんなさい。何か彼も知りながら、あゝした態度をし、あゝしたことを云はねばならない双美を、何卒許して下さい。然しては時が解決してくれるでせう。何にも申しません』

双美はそこまで書くと、[illegible]

女店員募集
參名・通勤・十七歳ヨリ二十五歳まで
月給制度・申込　五月三十一日まで…
大黑屋洋品店

小店員募集
四名・住込・十三歳ヨリ十八歳まで…
獨立資金積立制度………
申込　五月三十一日まで………
大黑屋洋品店

病室增築、手術室完備
醫學博士
産科婦人科　五十嵐雄二
平市新川町　電話三六九番

耳鼻咽喉科專門
大和田醫院
平市南町一六（電話一七〇番）

（夜間診療）
胃腸性病
內科　胃腸病科
花柳病科　性病科　皮膚科
專門
松村胃腸性病醫院
平市南町（電話一〇七番）

磐城セメント會社特約店
釜屋商店
磐城平市五丁目
電話九・九九
□良品廉賣に勝る商略なし
□確實敏捷は久の生命なり

特製
鰹節
みりん干
鰹
美味
いか鹽から
魚問屋
志賀盛榮商店
平市四丁目（電話二一三番）
日本生命平代理店

吉田眼科醫院
平市紺屋町　電話六八番
醫學士　吉田久雄

花柳病科外科
木村外科醫院
平市南町（警察署通り角）電話三〇九番

募集
永續者には將來の保證を致します
ボーイさん　◈堅實は營業方針の　サロンのお客は當地樣一流の方々です　◈色々な方に接することが社交儀禮の實際に學び成功の糸口ともなります
調理見習婦人　◈定評ある　サロンの調理法を御傳授いたします　◈見習ひとして調理場に御勤務出來る御婦人に限る
◈14歳以上3_歳迄の健康な方…
◈3年以上勤續出來る方…
◈親權者若くは本人御來談下さい。……
平市銀座街
電話592
サロン

（病室完備）
（入院隨時）
根本産科婦人科醫院
平市南町五二
根本荘次郎
根本貞雄
【電話四三番】

謹啓時下新綠之候御尊家益々御清祥の段奉慶賀候
陳者今般拙者儀主家(鈴木家)の事情により復籍致し候間從前と同樣何卒御交際賜り度懇願候先は不敢取失禮ながら紙上以て披露申上候
昭和十四年五月
平市北目町九二
新井改〆
鈴木滋造
在南洋ポナペ島
長男　鈴木彦一郎

喜多流謠曲と仕舞のお稽古をお奬め致します
入會隨時
喜多流謠曲仕舞　白土會
平市田町六九
電話一二七番

牛料理　石川亭
平市田町銀座通り
電話四三番
ドーゾ、お試食下さいマシ
最近東京で高評有る初夏よりの牛料理は
本場肉のすきやきでおろしの美味のよさ

石川のすきやき鍋
初めました

これは便利！
▼手を荒らさず
▼絹、毛織物、木綿、スフ生地を傷めず
▼つけておくだけで洗へる
美　マルミ粉末石鹼
製造元　平市材木町一一番地

國旗と提灯
山崎合名會社
電話一〇番

芳醇！
美味！
ひらた正宗